



事務所訪問

税理士法人エスミックパートナーズ

独自のノウハウと 強力な信頼関係で 音楽業界をサポート!!

若者文化の発信拠点・渋谷、このまちの一等地に事務所を構える関正春先生は、音楽業界に特化したサポートを展開しています。ときには、音楽製作の現場に参画することもあるそうです。さっそく、その仕事を拝見してみたいと思います。

PROFILE



所在地 / 〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-3-15
パリアンビル5F

TEL / 03-5778-2701

FAX / 03-5778-2704

導入システム / ACE LINK Navi

勉強嫌いが高じて 税理士になった

「商業高校に通っていたのですが、とにかく勉強が嫌いでした。そこで、卒業後は大手電器メーカーの子会社に就職して、すぐに働きはじめたのです」

そう話すのは税理士法人エスミックパートナーズの代表税理士、関正春先生。ところ

が「働くうちに周囲の大学卒者に対する劣等感を覚えるようになってきました。もちろん、その差を埋めようとして、経営や経済に関する本を読み漁ったりしましたが、どうしてもその劣等感を拭い去ることができませんでした」

そこで、関先生は会社を辞めて、大学進学を目指すことに。「とはいえ、お金に余裕があったわけではないので、



「アーティストが音楽をつくりやすい環境を提供していきたい」と話す関正春先生

大学の夜間部に進学することにした。そこで税理士試験の勉強をはじめたのです。商業高校で簿記1級の資格を取っていたので、それを生かそうと考えたわけです。それに、もうサラリーマン

生活に戻りたくありませんでしたから」と。
ちなみに当時、勤めていたアルバイト先での経験は関先生の大きな財産になっているといえます。

「ファーストフードショップでマネージャーの業務を担当していました。そのため、シフト管理、品質管理、原価計算の感覚を鍛えることができました。とりわけ原価計算に対する意識は非常に高くなっただと思います。というのは、勤務先では、すでにPOSシステムを導入していて、きびしい原価計算が求められていたからです。そういった先端の経営システムを扱うことで、経営というものを体感することができたように思います」

税務・会計、FPなどで音楽関係者をサポート

ところで、関先生の顧問先の大半は音楽関係者です。とはいっても、最初から音楽業界に特化したサポートを展開していたわけではありませんでした。

「前に勤めていた事務所が音楽業界に強かったこともあって、業界の仕組みについて、いろいろと学ぶことができた。もちろん、最初はわからないことだらけでしたが、経験を積むことで、自分なりのノウハウを積み重ねることができたのです。おかげで、今では顧問先の6、7割が音楽関係者になっています」

では、音楽業界の場合、ど

のような特殊なケースがあるのでしょうか。

「音楽業界には、肖像権や原盤権など、数多くの権利が存在します。しかも、その権利に関係する人物や会社がいづつも存在しています。もちろん、法律で定められていることもありますが、ほとんどの権利はそれぞれの間で取り決められた契約に基づいて使用されています。実にアバウトな部分が多いのです。だから、そのあたりをきちんと把握していないと、トラブルに対応することはできないのです」

たしかに、ひとつのアルバムを製作するだけでも、そこに関わっているのはアーティストだけでなく、バンド、製作会社など、多岐にわたります。もちろん、コンサートを開催する場合も同様です。だからこそ、こういった事情に明るい人材が税務・会計の業界でも求められるのです。

また、関先生はアーティストの資産運用に関しても積極的にサポートを展開しています。

「たとえば、売上げ100万枚のミリオンセラーを飛ば

した場合、アーティストは一夜にして億万長者になります。が、突然手に入った大金をどのように運用するかという問題に直面します。そのような業務も私たちが親身になって、サポートすべき領域なのです」

その活動領域はときとして製作現場にまで広がることもあるそうです。

「いくつか馴染みのスタジオがあるのですが、私がスタジオの見積もりや予約を取ったりすることもあります。経理を預かる身としては、どのスタジオを使ったほうが効率的で

コストがかからないかということも重要ですから」と。
そのため、ときには録音スタジオに招かれることもあるといいます。

「スタジオでアーティストが録音したばかりの音源を聞かせてくれることがあります。そのときに感想を求められることがあるのですが、さすがにちよつと緊張してしまします。それに、CDやDVDのスタッフ欄にスペシャルサンクスとして私の名前を載せてくれるアーティストもいます。本当にありがたい話です」

とはいえ、きびしい側面も

日本の音楽シーンを支えた若者文化の発信拠点

若者文化の発信拠点として知られる渋谷。ファッションの街という印象が強いが、日本屈指の音楽の街という一面もある。たとえば、渋谷には「クラブクアトロ」「O-East」などのライブハウスが数多く点在。これまでに数多くのアーティストたちを輩出してきた。また「Club asia」「VUENOS」といったクラブも渋谷を代表する存在だ。こういった渋谷の音楽シーンを支えてきたのが宇田川町にある数々のレコードショップ。それぞれのショップが個性的な品揃えをしており、多くのアーティストやDJたちにとって欠かせない存在になっている。しかし、ここにきて老舗の「CISCO RECORDS」や「マンハッタンレコードHOUSE店」などの閉店が相次いでいる。今後、渋谷の音楽シーンがどうなるか、その動向からも目がはなせない。

あります。たとえば、音楽業界には土日の休みがほとんどありません。だから、関先生もほとんど土日返上で、顧問先のサポートに奔走しなければならぬのです。

「アーティストの場合、平日はほかの仕事が立て込んでいたため、土日に相談したいというケースが多いのです。ですから、ここ数年、ほとんど土日に休みをとったことはありません。それに、土日は顧問先が関係しているコンサートを観に行くこともしばしばありますね。とはいえ、一緒に音楽づくりに携わっているという喜びがあるので、苦痛は何も感じません。どんなに大変でも、自分が担当したアーティストの楽曲がヒットしたときの喜びには代えられませんから」

税理士法人化で業務効率を向上させる

現在、関先生は多角的に音楽業界をサポートするために、(株)エスミック&アドバタイザーズと税理士法人エスミックパートナーズを運営して

います。経理請負、著作権管理、原盤印税管理、法務管理などを株式会社でサポートし、税務・会計は税理士法人でサポートするという体制です。ちなみに、税理士法人を設立したのは平成18年のこと。それぞれ独立していた税理士とともに立ち上げたそうです。

「それぞれの事務所に後継者がいなかったのが大きなキッカケになりました。自分の代で事務所をたたくてしまうと、顧問先に大変な迷惑をかけてしまいますからね」

とはいえ、それぞれの税理士事務所にはそれぞれの方針や仕事のやり方があります。たとえば、書類の保存方法や決算書の作り方などが異なります。それらをひとつにまとめあげるのがひと苦労だったそうです。

最近「徐々にギャップを埋めながら、業務改善に努めてきました。おかげで、今はほとんど一本化することができたと思います」と関先生。

ところで、関先生は他にも認めるオーディオマニアだそう。高校生の頃にオ

ーディオの魅力にとりつかれてからというものの、自分でスピーカーを作ったりしてきたそうです。

「高校生のときに、150万円のローンを組んで高級ステレオを購入したこともありました。必死にアルバイトをして、いい音々をつくることに執念を燃やしていましたね。おかげで、今も顧問先と音に対する情熱を共有することができているのかもしれない」

ちなみに、関先生がMJSのシステムを導入したのは、消費税が導入された89年頃のことです。

「前の事務所です使っていたシステムを引きつづき使っていたのですが、しだいに使い勝手が悪くなってきました。そこで、新しいシステムを導入しようということで、MJSのシステムにしたのです。使い勝手はもちろんのこと、消費税の個別対応方式を採用していたところが大きかったですね」
これからは音楽業界の縁の下力持ちとして頑張ってください。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



モダンな内装からはクリエイティブな印象を受けます